

自己点検・自己点検評価基準項目チェックシート(平成27年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェックする欄にも次の記号を入れて下さい。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(アイウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	平成26年度(前年度)自己点検評価状況	前年度改善を要した事項 (平成26年度記入)	平成27年度 チェック 欄	平成27年度 実施・改善状況	改善を要する事項 (平成27年度記入)
1 学習・教育到達目標の設定と公開	(1) 学習・教育到達目標の設定と公開, 伝統, 資源, 卒業生及び修了生の活躍分野等の考慮, 社会の要求や学生の要望への配慮	教務委員会 (専攻科委員会)					
	ア 学習・教育到達目標		【教務委員会】 学習・教育目標の設定を行っている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。 【専攻科委員会】 学習・教育目標は設定されている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある。 学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある。(再掲)	○ △	【教務委員会】 学習・教育到達目標の設定を行っている。授業と学習・教育目標との対応表を作成した。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の設定を行っている。授業と学習・教育到達目標との対応表を作成し、一部改正した。	教育目標の達成度の確認を, 国際ビジネス学専攻, 海事システム工学専攻でも実施する必要がある。
	イ 学習・教育到達目標の各項目と基準の設定およびその関係		【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき, 各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) 【専攻科委員会】 学習・教育目標の各項目と基準の設定は適切に実施されている。	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある。(再掲)	○ ○	【教務委員会】 各学科は, 学習・教育到達目標の各項目に基づき, それぞれの特色に応じた基準を設け, 適切に実施している。 【専攻科委員会】 各専攻は, 学習・教育到達目標の各項目に基づき, それぞれの専攻の特色に応じた基準を設け, 適切に実施している。	
	ウ 過去4年間における学習・教育到達目標の改訂内容と改訂理由		【教務委員会】 富山高等専門学校設置に伴い, 学習・教育目標を新たに定めた。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) 【専攻科委員会】 学習・教育目標に変更はない。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) 【機械システム工学科】 新学科へ改組時に設定した学習・教育目標を, 継続実践した。 【電気制御システム工学科】 平成22年度に新学科として発足したカリキュラムの科目間連携を再検討し, 科目の学年配当の変更および第3学年における科目の新設等の変更により, 教育効果の向上を図った。新カリキュラムは平成27年度入学生から適用している。	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある。(再掲) 学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある。(再掲)	○ ○ ○ ○	【教務委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。授業と学習・教育到達目標との対応表を作成し、一部改正した。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を, 継続して実践した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を, 継続して実践した。	

	<p>【電気制御システム工学科】 ・訪問した企業から本校に対する意見や要望を聞いた。学生からは授業評価アンケートと授業点検アンケートによって、授業の速度やレベル、学生の意見などを聴取した。</p> <p>【物質化学工学科】 学生による授業評価アンケート、求人を訪れる企業の意見などから、学生の要望や社会の要求を考慮している。</p> <p>【電子情報工学科】 ・学生に対して、企業、卒業生を招いて、ガイダンスを行った。 ・学科独自に授業アンケートを実施した。 ・学科独自に1年生向けの助言教員制度を実施した。</p> <p>[国際ビジネス学科] 今年度は予算減のため教員による関東、関西、中京方面への企業訪問を実施することが出来なかったが、引き続き、卒業生による進学・就職ガイダンス、及び、進路が確定した5年生による4年生に向けた学内進路ガイダンスを充実させて行なうことができた。さらに、4年生の「ビジネス・ゼミナール」の授業においては、進路概況、大学編入、専攻科進学、海外大学への進学、民間就職、公務員就職にわけて各担当教員から4年生の学生に向けて、年度初めに進路ガイダンスを行なった。これは今後も継続していくことにしている。</p> <p>【商船学科】 ヒューマンインフラとしての教員の活動、プロダクツとして、海事人材育成プロジェクトが進行中である。本プロジェクトは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業、「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」で、本年度は3年目にあたる。例えば「英語力育成」、「教材開発」、「電子書籍化」、「海技者像調査」プロジェクトなどが進行しており、さらに、船舶運航実務研修、船舶管理・物流業務・現地調査研修、教員英語外地研修も実施されており、本校が主導的役割を担って行われている。</p> <p>[機械工学科] 求人に訪問される企業や研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて懇談した。また学生からの要望に対しては例年通りアンケートにもとづき各々改善した。</p> <p>【電気工学科】 ・訪問した企業から本校に対する意見や要望を聞いた。学生からは授業評価アンケートと授業点検アンケートによって、授業の速度やレベル、学生の意見などを聴取した。 ・平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 学生による授業評価アンケートの結果を通し、学生の要望を把握した。さらにそれをシラバスに反映し、それをもとに両キャンパス共に、図書館情報センターの活用を更に推進している。</p>		<p>【電気制御システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【物質化学工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【電子情報工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。なお、低学年の補講制度を充実させて、担任、学科、講師の連携を充実させた。</p> <p>【国際ビジネス学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【商船学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。なお、海事人材育成プロジェクトの一環として、海事系五高専合同で海事教育セミナー(GI-NET)を開催した。さらに、富山高専・海事教育セミナーを実施し、産学協働による新しい海事教育を試みた。また、「英語力育成」、「教材開発」、「電子書籍化」事業は継続して実施した。 廃止</p> <p>廃止</p> <p>【一般教養科】 学生の要望等を聞くために、授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。さらにそれらをシラバスに反映し、授業改善を行っている。</p>	
オ 学習・教育到達目標の水準の設定に関する説明			<p>【教務委員会】 学習・教育到達目標の水準の設定については、入学時のオリエンテーションにおいて、学生に、十分説明している。オリエンテーションでは、授業科目ごとにシラバスを配布して説明を行っている。</p>	

		<p>【専攻科委員会】 水準の設定については、入学時のオリエンテーションで十分に説明されている。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムの JABEE 受審を行った(再掲)</p> <p>【電気制御システム工学科】 平成 22 年度に新学科として発足したときに、教育目標の水準を設定した。平成 26 年度のカリキュラム改訂において、教育目標の水準を再確認した。全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムの JABEE 受審を行った(再掲)</p> <p>【国際ビジネス学科】 全授業科目について、シラバスを配布説明して、授業の目標、内容、評価のしくみを説明した。</p> <p>【商船学科】 商船学科の教育目標を商船学科の WEB ページで公開している。また授業科目についてはシラバスを作成し、授業開始時に教育目標等を説明している。商船学科としての教育成果の尺度の一つとして海技従事者免状の 2 級、1 級取得率の向上があるが、学科教員の指導努力によりその合格率が向上している。また、英語力向上を旨とし、特別教育活動として TOEIC 対策講座を開講し、商船学科学生が積極的に参加した。それによりスコアも確実に上がっている。</p> <p>【機械システム工学科】 新学科へ改組時に設定した教育理念に基づき、学科会議において授業科目の内容や設備、担当者などを検討し、実践した。</p> <p>【電気工学科】 ・全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明した。 ・平成 26 年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 全授業科目において、初回授業にシラバスを配布し、それをを用いて必要な水準を説明している。さらに特色の異なる 6 学科(工学系、国際ビジネス、商船)に出講するため、それぞれの特色に合せた水準を設け、授業を展開している。</p>		<p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の水準の設定については、入学時のオリエンテーションにおいて、学生に、十分説明している。</p> <p>オリエンテーションでは、授業科目ごとにシラバスを配布して説明を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【商船学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。 廃止</p> <p>【一般教養科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p>	
カ	学習・教育到達目標における伝統、建学の精神、理念などの考慮	<p>【教務委員会】 教育理念・社会からの需要を踏まえ、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて 2014 年度 JABEE 継続審査を受け認定された。(再掲)</p> <p>【専攻科委員会】 十分に考慮されている。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて 2014 年度 JABEE 継続審査を受け認定された。(再掲)</p>		<p>【教務委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、設定されたものであり、その理念のもとに本年度も学習・教育が継続して実践された。</p> <p>【専攻科委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、設定されたものであり、その理念のもとに本年度も学習・教育が継続して実践された。</p>	

		<p>【電気制御システム工学科】 学科会議において教育理念に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【物質化学工学科】 新学科への改組時に学校の教育理念、教育方針及び社会からの需要を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【国際ビジネス学科】 今年度も本校練習船実習の他、近隣の海洋教育施設との協力の元での実習も行なった。 同時に、新学科(国際ビジネス)の専門分野である経営学の中に伝統を位置づけなおして、その意義を検討した。</p> <p>【商船学科】 当世の学生の気質を学習・教育目標に適合させるべく考慮している。商船学科のWEB ページに商船学科の教育目標を公開している。</p> <p>【機械工学科】 新学科へ改組時に設定した教育理念に基づき、学科会議において授業科目の内容や設備、担当者などを検討し、実践した。</p> <p>【電気工学科】 ・学科会議において教育理念に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。 ・平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 同じ学年でも学科の状況に合わせ、伝統や建学の理念が異なるため、それぞれの学科の特色に合わせて学習・教育目標の設定を行い、教科書や参考書、担当教員など選んでいる。</p>		<p>○ 【電気制御システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 さらに、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>△ 【物質化学工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。また、学科会議において、物質化学工学科の教育目標の妥当性を確認したが、一部改正の必要があるという意見もあった。</p> <p>○ 【国際ビジネス学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 なお、3学年と4学年では本校練習船による終日または1泊2日の乗船実習を行った。1学年と2学年は近隣の海洋教育施設の協力のもとで停泊での実習や講義を行った。</p> <p>○ 【商船学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 なお、大型船による短期実習が導入されたこともあり、座学における学習のモチベーションの向上を図った。また、サバイバル実習など、商船学科固有の行事を通して学生のシーマンシップ意識の向上に努めた。 廃止 廃止</p> <p>○ 【一般教養科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。同じ学年であっても、学科によって伝統や建学の理念が異なるため、それぞれの学科の特色に合わせて学習・教育到達目標の設定を行い、教科書や参考書、担当教員など選んでいる。</p>	<p>アドミッションポリシーの改正の議論とともに本件も議論してゆく必要あり</p>
<p>キ 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの人的、設備的資源の考慮</p>		<p>【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>【専攻科委員会】 人的資源、設備的資源ともに変更点なし。 射水キャンパス：人的資源に変更なし。設備的資源として、計画に従って専攻科棟内の講義室等を整備した。</p> <p>【機械システム工学科】 ・制御系教員の適任者を採用すべく方策が検討された。新カリキュラムの内容や使用設備について各教科担当者からの意見のとりまとめがはじめられた。学生実験の充実を図るため、共通実験室の改修工事が行われた。</p>		<p>○ 【教務委員会】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 教員については、博士号所有の専任教員、並びに企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>○ 【専攻科委員会】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 なお、射水キャンパスでは、学生支援の強化のため、各専攻に専攻担当を設けた。</p> <p>○ 【機械システム工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 なお、制御系教員の適任者を採用すべく方策が検討された。その結果、1名の採用があった。学科会議において、新カリキュラムの内容や使用設備について、各教科担当者からの意見のとりまとめがはじめられた。また学生実験の充実を図るため、共通実験室の改修工事が行われた。</p>	

	<p>【専攻科委員会】 国内外の学会への学生の積極的な参加を実施している。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学専攻の特例適用専攻科受審の結果、「電気・電子」及び「情報」の2分野において「適」となった。</p> <p>【機械システム工学科】 ・新学科のカリキュラムが本格的に専門科目に入ってきたため、目標を達成すべく、各授業の詳細な内容、開講時期、学生の理解度などについて学科会議で意見交換を行った。また、カリキュラムの充実策について検討を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 2年生と3年生に対してHRなどを使い、学科の目標と学習内容、そして、卒業後の進路を説明した。また、3年生に対しては履修科目のつながり(系統図)と4年次の学習内容について説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 2年前期に「基礎有機化学」、および3年後期に「無機反応化学」をそれぞれ1単位増設し、専門科目が充実した。</p> <p>【電子情報工学科】 制御情報システム工学専攻の特例適用専攻科受審の結果、「電気・電子」及び「情報」の2分野において「適」となった。</p> <p>【国際ビジネス学科】 国際流通学科から国際ビジネス学科・国際ビジネス学専攻への展開において専攻分野の変化が生じたために、新学科、専攻科、及び、特別研究等の指導資格の面で、不都合が存在する。現在、各教員は少しでも専攻科や特別研究を担当することができるように、研究業績、学位の取得等に務めている状態である。</p> <p>【商船学科】 商船学科のカリキュラムは第一種船員養成施設の規範をみたくすべく文部科学省と国土交通省との両省の規則に支配される。それについて綿密に検討され申請し認可を受けている。</p> <p>【機械工学科】 ・新学科のカリキュラムが本格的に専門科目に入ってきたため、目標を達成すべく、各授業の詳細な内容、開講時期、学生の理解度などについて学科会議で意見交換を行った。また、カリキュラムの充実策について検討を行った。</p> <p>【電気工学科】 ・電気工学科最終学生のため旧カリキュラムの追試験対応などの指導を行った。</p>		<p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、新学科のカリキュラムが本格的に専門科目に入ってきたため、学習・教育到達目標を達成すべく、各授業の詳細な内容、開講時期、学生の理解度などについて学科会議で意見交換を行った。また、カリキュラムの充実策について検討を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、1年生、2年生と3年生に対してHRなどを使い、学科の学習・教育到達目標と学習内容、そして、卒業後の進路を説明した。また、3年生に対しては履修科目のつながり(系統図)と4年次の学習内容について説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、1年生のものづくり基礎工学実験を平成28年度からは「物質化学基礎実験」と改名し、開講時期も前記と後期に分けて実施することで効率的に基礎的化学実験教育が実施出来る体制を整えた。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。時に、専攻科進学希望者の研究室配属を優先させ、早期に卒業研究を開始できるよう配慮した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 2年前、国際流通学科から新たに国際ビジネス学科、並びに国際ビジネス学専攻へと改変した。新学科、新専攻科において、特別研究を担当できる教員が少ないという問題がある。今年度、特別研究の担当資格を有する教員を1名採用できたが、まだまだ足りない。</p> <p>【商船学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、商船学科のカリキュラムは、第一種船員養成施設の規範をみたくすべく、文部科学省と国土交通省との両省の規則に支配される。本年度8月、養成施設立ち入り検査を受審し、第一種船員養成施設の認証を受けた。</p> <p>○ 廃止</p> <p>○ 廃止</p>	<p>研究業績の蓄積、あるいは、学位取得を奨励していきたい。</p>
--	--	--	--	------------------------------------

		<p>【一般教養科】 6学科の特性に合せた内容、進度、難易度を考慮し、工夫している。</p>		<p>○ 【一般教養科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、本校に設置された6学科では、それぞれの特性に応じて、輩出する人材像が異なる。そこで、本教養科では、教育目標や教育内容、進度、難易度を考慮し、教育に工夫を凝らしている。</p>	
ケ 学習・教育到達目標における卒業生の活躍分野の考慮	<p>【教務委員会】今までの卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 変更点はなかった。</p> <p>【電気制御システム工学科】 2年生、3年生、4年生に対してHRなどを使い、授業計画、卒業後の進路などについて説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 新学科への改組時に、卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 進学、編入学、就職した分野を十分に対象とした。</p> <p>【国際ビジネス学科】 卒業生の進路の多様性や幅の広さは今年度も従来の通りであった。しかしながら、こうした多様な進学先や就職先への対応は、所属教員の多岐にわたる専門分野のために維持できている面がある。この点は国際ビジネス学科の強みとして自覚し、学生の進路指導を充実させたい。</p> <p>【商船学科】 特に4年時実施の企業インターンシップに学生を参加させることによって動機付けを図り、また企業から学科への企業説明の場を積極的に設けた。また、卒業生による活躍分野の実体験説明の場を4年生、3年生、2年生に作ることで商船学科の学習・教育に生かしている。</p> <p>【機械システム工学科】 卒業生による産学連携に関する特別講演を実施し、実践的な教育と学生の勉強意欲の向上に努めた。</p> <p>【電気工学科】 ・電気工学科最終学生のため個別に進路指導を行った。</p> <p>【一般教養科】 6学科の特色に合わせ、その活躍分野に応じた教材、シラバスを用意している。</p>		<p>○ 【教務委員会】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。</p> <p>○ 【専攻科委員会】 修了生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。</p> <p>○ 【電気制御システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。 なお、1年生、2年生、3年生、4年生に対して、HRなどの時間を利用して授業計画、卒業後の進路などについて説明した。</p> <p>○ 【物質化学工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。 なお、1年生、2年生、3年生、4年生に対して、HRなどの時間を利用して授業計画、卒業後の進路などについて説明した。</p> <p>○ 【電子情報工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。さらに、卒業生を招聘して企業ガイダンスを頻繁に行った。</p> <p>○ 【国際ビジネス学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。本学科の卒業生の幅広い進路は、教員が多岐にわたる専門分野を有することに一因がある。この点は本学科の強みとして自覚し、学生の進路指導を充実させたい。</p> <p>○ 【商船学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。 なお、特に4年時に実施している企業インターンシップにおいて、参加学生の動機付けと、企業説明の場を積極的に設けた。また、卒業生を招聘し、彼らの実体験を2年生、3年生、4年生に対し話してもらった場を設けることにより、学生の学習意欲の向上に努めた。</p> <p>○ 【機械システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。 なお、卒業生による産学連携に関する特別講演を実施し、実践的な教育と学生の勉強意欲の向上に努めた。</p> <p>○ 【一般教養科】 卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育到達目標の設定を行った。 なお、6学科の特色に合わせ、その活躍分野に応じた教材、シラバスを用意し、指導している。</p>		
コ カリキュラムに関わる教員への周知方法	<p>【教務委員会】 教員会議・各委員会・各学科において周知している。</p>		<p>○ 【教務委員会】 教員会議、各委員会、並びに各学科において教員へ周知している。</p>		

			<p>【専攻科委員会】 J A B E E 認定の教育プログラムを含め、履修の手引きを配布し、周知している。</p>		○	<p>【専攻科委員会】 J A B E E 認定の教育プログラムを含め、履修の手引きを配布するなど、カリキュラムの内容を教員に周知している。また、認定専攻科に関わる教育状況の調査時に合わせて、関係教員への説明会を実施した。</p> <p>【全専攻】 履修の手引きを配布するなど、カリキュラムの内容を教員に周知している。また、認定専攻科に関わる教育状況の調査時に合わせて、関係教員への説明会を実施した。</p>	
	サ 学生への周知方法および周知時期(学年, 学期)		<p>【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している。(1年生対象, 4月)</p> <p>【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり、J A B E E 認定の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)</p>	<p>学習教育目標及び授業との対応関係について「W」の判定を受けたため、早急に改善し学生に周知する必要がある。</p>	○ △	<p>【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している。(1年生対象, 4月)</p> <p>【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり、J A B E E 認定の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。</p> <p>【全専攻】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり、授業の履修手引き等を配布し周知している。</p>	<p>海事システム工学専攻, 国際ビジネス学専攻においても, 教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明する必要がある。(再掲)</p>
	(2) 学内外への公開方法と公開時期	教務委員会(専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 HP, 学生便覧に掲載。(新学科は平成22年4月から掲載)</p> <p>【専攻科委員会】 JABEE認定教育プログラムを含め、学習・教育目標を公開されている。</p>		○ ○	<p>【教務委員会】 学習・教育到達目標をHP, 学生便覧に掲載。(新学科は平成22年4月から掲載)</p> <p>【専攻科委員会】 JABEE認定教育プログラムを含め、学習・教育到達目標を公開している。</p>	
2 教育手段							
2-1 教育課程の設計	(1) カリキュラムの設計と開示	教務委員会(専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でカリキュラム設計を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 修了要件等について、学習時間を学生自身が確認できるように配慮されている。</p> <p>【制御情報システム工学専攻】 制御情報システム工学専攻の特例適用専攻科受審の結果、「電気・電子」及び「情報」の2分野において「適」となった。(再掲) ・制御情報システム専攻では、本科が完成年度を迎えるため、これに対応するカリキュラム改訂を行なった。</p>	<p>カリキュラム改訂による学位授与機構への申請を行う必要がある。</p>	○ ○	<p>【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でのカリキュラム設計を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計がされ、また修了要件等について、学習時間を学生自身が確認できるように配慮されている。</p>	
	イ カリキュラムの教員および学生への開示方法		HP及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。		○	カリキュラムについては、HP及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。教員及び学生ともにHP等閲覧可能となっている。	
	ウ 標準終了年限および教育内容の設定				○	設置基準に規定されている	
	(2) 科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施	教務委員会(専攻科委員会)					

		ア 各科目のシラバスの作成。 シラバスには、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示。		【教務委員会】 モデルコアカリキュラムを考慮し、従来の項目にさらに「育成する社会人基礎力」「単位の内訳」「JABEE基準」「科目の達成目標」項目を追加し、両キャンパス共通のシラバスを作成することとした。 【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) 【専攻科委員会】 シラバスは、当該教科担当教員が中心となり作成され、教育内容、達成目標、成績評価方法等が明示されている。	学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。(再掲)	○	【教務委員会】 各科目について、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示したシラバスを作成している。 また、モデルコアカリキュラムを考慮し、上記の項目にさらに「育成する社会人基礎力」、「JABEE基準」などの項目を追加している。 【専攻科委員会】 各科目について、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示したシラバスを作成している。	海事システム工学専攻、国際ビジネス学専攻においても、教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明する必要がある。(再掲)
		イ 各科目における達成目標設定の際の社会の要請する水準の考慮方法		【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を十分検討し、作成している。 【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果を十分検討した上で作成されている。		○	【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果、外部識者からの意見等を考慮し、達成目標を作成している。 【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果、外部識者からの意見等を十分検討した上で作成されている。	
		ウ シラバスの開示方法		【教務委員会】 Webにより公開、又学生には印刷し配付している。 【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配布している。	シラバスのチェックについて種々の改善の指摘を受けた。	○	【教務委員会】 ホームページ上で公開している。また、学生には印刷したものを配付している。 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配付している。	
		(3) 学生自身の達成度点検と学習への反映	教務委員会 (専攻科委員会)			○	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認し、学習へ反映している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認し、学習へ反映している。	
2-2	学習・教育の実施	(1) シラバスに従った教育の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。		○	【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。	
		(2) 自己学習時間を確保するための取り組み	教務委員会 (専攻科委員会)			○	【教務委員会】 各科目において、課題を課すなど自己学習を促すための対応をとっている。また、放課後の時間を確保できるような校時を設定している。	
		(3) 学生の達成状況の継続的な点検	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 解答・アンケート期間において、達成度点検を行っている。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。		○	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。	
2-3	教育組織	(1) 教員の数と能力および教育支援体制 ア 教員の数と能力	校長	・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。 ・年度ごとに各教員に研究業績を提出してもらっている。		○	・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。 ・年度ごとに各教員に研究業績を提出してもらっている。	

	イ 教育支援体制		・教員の教育意識の向上を図るために、校長裁量経費、外部財団研究助成候補者で支援している。		○	・教員の支援として、校長裁量経費、研究助成等を選考することで支援している。	
	(2) 科目間の連携・教育効果改善教員間連絡ネットワーク組織の存在と活動の実施 ア 教員間連絡ネットワークの存在	副校長 教務委員会	【副校長】 校長補佐、学科長との連絡会を定期的開催し、さまざまな話題について議論した。 【教務委員会】 学科会議・教務委員会等において、連携・教育効果について検討を行っている。		○ ○	各キャンパスにおいて、定期的に校長と副校長、校長補佐、学科長との懇談会を実施している。また、教員会議、各種委員会、学科会議などを定期的開催し、情報共有と意見交換を行っている。 【教務委員会】 学科会議・教務委員会等において、情報共有と意見交換を行っている。	
	イ 教員間連絡ネットワークの活動実績		【副校長】・両キャンパスの校長補佐と校長および副校長との連絡会、各キャンパスにおいては、校長補佐、学科長と校長および副校長との連絡会を定期的開催した。・両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。 【教務委員会】 学科会議の中で「シラバス検討会」及び「カリキュラム検討会」等の時間を設け、各科目間の教育内容の相互理解や情報交換を行っている。		○	校長と両キャンパスの副校長、校長補佐との連絡会を定期的開催した。両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。	
	(3) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在、開示、実施 ア FDの存在	FD委員会	平成22年度からFD委員会を設置し、FD活動について検討を進めている。FD活動の見直しを検討した。		○	FD委員会を設置し、FD活動についての企画・運営を行っている。	
	イ FDの開示方法		FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう、学内ネットワークに掲載した。また、HPにFD活動実績一覧の項目を作成している。		○	FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう、学内ネットワークに掲載した。	
	ウ FDの実績		・外部講師を招聘し、知的財産をテーマとしたFD研修会(12/2)を開催した。 ・教員間の授業参観も実施し、評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。		○	・本校教員や外部から招聘した講師により、FD研修会を4回実施した。 ・教員間の授業参観も実施し、評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。	
	(4) 教員の教育活動に関する評価方法の開示・実施 ア 教員の教育に関する貢献の評価方法	副校長	教員顕彰制度を実施した。		○	教員顕彰制度を実施した。教員の給与等にも教育業績等を加味した・	
	イ 教育貢献評価方法の開示状況		教育貢献評価方法の開示については、活動実績が有る場合はホームページなどに掲載している。		○	教育貢献評価方法の開示状況は、活動実績が有る場合にホームページなどに掲載を行っている。	
	ウ 教育貢献評価の実績		平成23年度から続けている、教員の教育貢献について評価を行っている。		○	平成23年度から続けている、教員の教育貢献について評価を行っている。 教員表彰や教員の給与に評価内容を反映している。	
2-4	入学、学生受け入れ及び異動の方法 ア 入学、学生受け入れ及び異動の方法 イ 入学者選抜方法の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針	入試委員会	推薦選抜入試検討WGにおいて、選抜方法等の検討を行う。		○	推薦選抜基本方針については、2C入試委員会で審議決定している。	

	イ 具体的選抜方法		推薦選抜入試検討WGにおいて、選抜方法等の検討を行う。		○	推薦選抜基本方針のもとに、推薦選抜入試検討WGにおいて、選抜方法等の検討を行っている。	
	ウ 選抜方法の学内外への開示方法		平成26年度入学者選抜基準をホームページ上において公開するとともに、オープンキャンパスや学生募集説明会において、中学生や中学校教員に対して説明を行った。		○	平成26年度入学者選抜基準をホームページ上において公開するとともに、オープンキャンパスや学生募集説明会において、中学生や中学校教員に対して説明を行った。	
	(2) 編入学方法および編入基準の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針	入試委員会	決定済。特記事項なし		○	決定している。	
	イ 具体的選抜方法		決定済。特記事項なし		○	決定している。	
	ウ 選抜方法および選抜基準の学内外への開示方法		7月に学生募集要項を公表し、HPに掲載した。		○	7月に学生募集要項を公表し、HPに掲載した。	
	(3) カリキュラム履修生の移籍	教務委員会	教務委員会で選考の上、転学科を許可している。		○	該当事項なし	
2-5 教育環境・学生支援	(1) 教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備および食堂等の整備	施設・環境マネジメント委員会、安全衛生委員会	<p>【施設・環境マネジメント委員会】</p> <p><本郷キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> 高度化再編に伴う施設整備計画に基づき、再編統合に併せ実験室等移動に係るM棟の施設整備を行い、共通実験スペースを確保する等新しいカリキュラムに対応する施設とし、学生・教職員に対する教育環境等の改善を図った。 実習工場西面において、直射日光による局所的な温度上昇が原因となる工作機械の加工精度低下が懸念されていたため、紫外線対策として実習工場西面の窓に断熱および紫外線カットフィルムを貼付した。 学生寄宿舍でエアコンがない部屋にエアコンを設置するため(1号館8室、4号館全室)の電源工事を行った。 平成27年度概算要求において、寄宿舍4号館改修及び屋内運動場等耐震改修を要求した。 		○	<p>学生にとって良い教育環境を維持するために、教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備等の学校施設の整備を継続的に実施している。本年度実施分は以下のとおりである。</p> <p><本郷キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻科西側の自転車小屋は、外灯の明かりが屋根に遮られて内部がととも暗く防犯上危険であり、隣接する駐車場に出入りする車と接触する可能性もあることから、それらを回避するため人感センサーの照明を複数台設置した。 共通棟3の教員室及び研究室では、エアコンが入らない時期に暑くて窓を開けると蚊等の虫が入ってくるため網戸を設置した。 実習工場の屋根は経年劣化によりさびが発生しており、このままでは雨漏りの原因となるため屋根塗装を実施した。 学生寄宿舍3号館の物干しが、老朽化で塗装剥離しさびているため補修を行った。 E棟、M棟、共通棟1の窓ガラスの断熱が不十分で空調効果が悪いため、遮熱フィルムを貼付した。 実習工場で材料及び油類を貯蔵するため、工場外に貯蔵庫を設置した。 校舎正面の池周りの道路標識が劣化して見辛いこと、送迎する車がスピードを出すので危険なこと、並びに学生を迎えに来る車の駐車場所を指定するため、道路標識の新規設置・更新及び白線を引き駐車場の整備等を行った。 水銀灯の外灯をLEDの照明に更新し、消費電力を削減した。 平成27年度概算要求事業として、第1・第2体育館及び武道場の非構造部材耐震改修工事及びバスケットゴールの更新を行った。 	

		<p><射水キャンパス>・管理棟がI s 値0.57と低く基準の0.7を下回っていたため、概算要求事業として耐震補強を実施するほか、部分的に内部改修・外部改修を行った。・高度化再編Ⅵ期工事として、第1専門棟1階材料力学実験室、教員室を共通ラボA、共通ラボB、共通ラボC、教員室として整備した。また、第2専門棟1階教室をIT融合実験室として教育環境等の改善を図った。・学内営繕事業として、①第2専門棟4階旧パワーエレクトロニクス実験室を知的情報処理実験室に使用目的を変更するため、床面をフリーアクセスに整備して使用者の安全面と情報の安定化を確保した。②第2専門棟3階知能工学実験室内の暗室を撤去し、一部屋にして空間を有効活用できるよう整備した。③第2専門棟3階数理情報実験室と電子情報第4実験室の分割している壁を撤去し、電子実験系の教員が管理する実験室とし専攻科生・短期留学生の受入れ体制を整えた。・第3専門棟廊下の照明を人感センサー付きのものに取替えた。また、構内の一部外灯設備を水銀灯ランプからLEDランプに交換した。・今年度、主に教員が使用する部屋の使用状況調査を実施した。・今後の職員宿舎の取扱いについて検討を行い、今後建替要求を行わないこととし、危険建物は順次取り壊すこととした。</p>			<p><射水キャンパス>・文部科学省では本年度中に全ての建物の耐震補強を終える方針のため、ボイラー棟の耐震補強工事を行った。・本年度7月開催の第1回施設・設備整備委員会(射水キャンパス)において、耐震性の劣った空き宿舎の職員宿舎取壊年次計画表が了承され、その計画に基づいて平成27年度から3年間で職員宿舎9戸を取り壊す予定にしている。また、屋内運動場非構造部材耐震対策事業として体育館のバスケットゴールの更新・登り綱の撤去及び武道館の照明器具の支持補強等の整備を行った。・学内営繕事業として、①第3寮棟1階補食室環境整備としてIHクッキングヒーターの設置のための電源工事を行った。②職員宿舎取壊年次計画に基づいて、17・18号棟の2棟3戸を取り壊した。③夜間の安全と省エネの両立のため管理棟2階廊下及び第2専門棟廊下の照明設備を人感センサーによる制御に整備した。また構内外灯設備を水銀灯ランプから省エネ及び取替寿命の長いLEDランプに交換した。④経年及び塩害による屋根の腐食等のため、合宿研修施設の屋根の葺き替えを行った。</p>	
<p>(2) 教育環境および学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みの存在、その仕組みの開示、活動の実施</p>	<p>教務委員会 学生委員会 寮務委員会 学生相談室 進路指導室</p>	<p>【教務委員会】 低学年の成績不振者に対する補講として、数学のほかに物理も実施した。さらに、特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 授業評価アンケート、学生相談については、昨年度との変更点なし</p> <p>【学生主事】 ※①～⑤は以下イ、ウに対応) ①就学支援－授業料免除制度や各種奨学金制度 ②学生相談－相談窓口として各キャンパスに相談窓口を設置 ③福利厚生－福利厚生施設としての生協運営 ④進路支援－学科5年生および専攻科2年生による「先輩に学ぶ」講演会の実施。卒業生による進路ガイダンスの開催。 ⑤その他－交通安全、消費者教育、各種講演会の実施、「リーダー研修会」の実施</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【教務委員会】 学習支援に関して、低学年の成績不振者に対する補講として、数学のほかに物理も実施した。さらに、特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 授業評価アンケート、学生相談については、昨年度同様に実施した。</p> <p>【学生委員会】 学生の勉学を支援するために、以下の支援を行った。 ①就学支援－授業料免除制度や各種奨学金制度 ②福利厚生－福利厚生施設としての生協運営 ③その他学生支援－交通安全、消費者教育、各種講演会の実施、「リーダー研修会」の実施</p> <p>【学生相談室】 学生の心の健康を支えるために、各キャンパスに学生相談室を設置し、学生の相談に対応できる体制を整えている。また、カウンセリング、あるいは治療が必要な場合には、精神科医と学校医の契約を行い、カウンセラーと連携しながら実施している。</p> <p>【進路指導室】 各キャンパス進路指導室において、進路支援を実施。</p>	
<p>イ 支援体制の教員、職員および学生に対する開示</p>		<p>【教務委員会】 前学期(7-9月)、後学期(1-2月)に低学年補講を実施した。 11月頃より特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p>		<p>○</p>	<p>支援体制は教員、職員及び学生に公開している。</p> <p>【教務委員会】 定期試験前に、低学年補講を実施した。 年間を通して特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p>	

	<p>【学生主事】 ①就学支援-相談窓口として、いつでも学務課、学生課窓口で対応できるようにしている。 ②学生相談-各キャンパス相談室においてカウンセラーによる相談を週2回実施している。 ③福利厚生-生協において、食堂、売店運営等各種支援の他、富山高専オリジナル商品(贈答用菓子等)を企画し検討したり、その他学生の要望を反映し営業している。また、本郷キャンパスに自動販売機を増設した。 ④進路支援-射水キャンパスでは、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。本郷Cでは、「先輩に学ぶ」シリーズでは、4回開催し、事後アンケートでも高評価を得た。来年度もより系統的に継続する予定である。 ⑤その他 ・学生の意見を聴取するために、各クラスの評議員からなる評議会を立ち上げて学生会が意見集約した。 ・学生がトラブルに巻き込まれやすいSNS利用に対して、集会での注意及び文書を配付して注意喚起をした。 ・外部講師を招いてネットモラル講習会を新設し開催した。 ・地元の自治会の役員と懇談し、学生補導等に関して地域住民との情報交換を行った。 ・運動部を対象に熱中症防止のための講習会を新設し開催した。</p>		<p>【学生委員会】 ①就学支援-学務課、学生課での窓口対応のほかHPで就学支援のお知らせをしている。 ②福利厚生-各キャンパスの学生会から生協委員を選出し、生協理事会に参加している。 ③その他学生支援 ・学生の意見を聴取するために、各クラスの評議員からなる評議会を開催した。</p> <p>【学生相談室】 ①学生相談室について、HPでお知らせを実施、新一年生オリエンテーション時に学生相談室のパンフレットを配付、保護者あてには相談室の案内を郵送した。</p> <p>【進路指導室】 HPで企業向けに就職関係のお知らせ、学生へは、担任から進路についての各種お知らせを行っている。また、求人ネットシステムの利用について、保護者にも文書でお知らせした。</p>	
ウ 支援体制の活動実施状況	<p>【教務委員会】 前学期(7-9月)、後学期(1-2月)に低学年補講を実施した。 11月頃より特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生主事】①就学支援-相談窓口として、いつでも学務課、学生課窓口で対応できるようにしている。②学生相談-各キャンパス相談室においてカウンセラーによる相談を週2回実施している。③福利厚生-生協において、食堂、売店運営等各種支援の他、富山高専オリジナル商品(贈答用菓子等)を企画し検討したり、その他学生の要望を反映し営業している。また、本郷キャンパスに自動販売機を増設した。④進路支援-射水キャンパスでは、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。本郷Cでは、「先輩に学ぶ」シリーズでは、4回開催し、事後アンケートでも高評価を得た。来年度もより系統的に継続する予定である。⑤その他・学生の意見を聴取するために、各クラスの評議員からなる評議会を立ち上げて学生会が意見集約した。・学生がトラブルに巻き込まれやすいSNS利用に対して、集会での注意及び文書を配付して注意喚起をした。・外部講師を招いてネットモラル講習会を新設し開催した。・地元の自治会の役員と懇談し、学生補導等に関して地域住民との情報交換を行った。・運動部を対象に熱中症防止のための講習会を新設し開催した。</p>		<p>【教務委員会】 定期試験前に、低学年補講を実施した。 年間を通して特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生委員会】①就学支援-授業料免除の実施及び担任を通して、奨学金の募集など就学支援を行った。②福利厚生-生協において、食堂、売店運営等各種支援の他、学生会生協委員が中心となり還元セールを企画した。クラブ長会議において福利厚生に関する意見をとりまとめた。また、学生会合同研修において、合同球技大会、高専祭について意見交換を実施した。③その他学生支援・学生の意見を聴取するために、各クラスの評議員からなる評議会を開催し学生会が意見集約した。・各種学生生活に関する講演会を実施した。・学生がトラブルに巻き込まれやすいSNS利用に対して、1年生を対象に講演会を実施し、注意喚起をした。併せて学生へ文書配布や(全体)集会でも注意喚起を行った。・外部講師を招いてネットモラル講習会を開催した。・地元の自治会の役員と懇談し、学生補導等に関して地域住民との情報交換を行った。・運動部を対象に熱中症防止のための講習会を開催した。</p> <p>【学生相談室】 各キャンパス相談室において、相談員による相談のほか、カウンセラーによる相談を週2回実施している。年2回のこころと体の健康調査を実施した。</p>	

						○	【進路指導室】 11月に企業研究会を開催し、技術振興会企業45社、両キャンパスから125名の学生参加があった。さらに射水キャンパスでは、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。求人ネットシステムについて、昨年度に引き続き利用し、学生へ求人情報を公開した。	
	(3) 施設、設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取り組み	予算委員会				○	【予算委員会】 施設等の維持管理のために、教育等施設基盤経費を充て施設等の健全な運用を行っている。	
3 学習・教育目標の達成	(1) 科目ごとの目標に対する達成度評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)				○	【教務委員会】 科目毎に、学習・教育目標をシラバスに掲載し、各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。	
						○	【専攻科委員会】 科目毎に、シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価している。	
	(2) 他の高等教育機関で取得した単位および編入生等が編入前に取得した単位に関する評価方法・評価基準の作成とそれに基づく単位認定の実施	教務委員会 (専攻科委員会)						
	ア 評価方法と評価基準の作成					○	学業に関する規則(第9条, 10条)で定めている。	
	イ 評価方法と評価基準の運用					○	規則に基づき、教務委員会で審議し単位の認定を行っている。	
	(3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)						
	ア 学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定					○	教科毎に、学科の学習・教育目標にもとづいた達成度と評価基準は設定され、シラバスに記載されている。	
	イ 学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準を設定した際に考慮した「社会の要請する水準」の具体的根拠					○	達成度評価方法と評価基準を設定した際に考慮したレベルは、モデルコアカリキュラムやその他の認証評価基準(JABEE又はSTCW資質基準システム等)、あるいは学協会の提言を参考にして設定したものである。「エコデザイン教育プログラム」は、昨年、一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)の継続認定審査を受審し、認定されている。	「社会の要請する水準」の具体的根拠
	ウ 学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準の運用実績					○	学生による授業点検アンケートの実施、シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価がなされていることを確認している。	
	(4) 修了生全員のすべての学習・教育目標の達成	教務委員会 (専攻科委員会)				○	修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し、これを特別研究指導教員、副専攻科長、学務課教務担当が点検し、専攻科委員会で審議、確認している。学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。	
4 教育改善								

4-1 教育点検	(1) 学習・教育目標達成状況の評価結果に基づいて、基準に則してカリキュラムの教育活動を点検できる仕組みの存在とその開示・実施	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 (専攻科委員会)					
	ア 教育点検システムの存在		【教務委員会】 教務委員会・FD委員会において、教育課程等の点検を実施している。		○	【教務委員会】 教務委員会・FD委員会において、教育課程等の点検を実施している。	
	イ 教育点検システムの教員に対する開示		【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。		○	【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。 FD委員会に、教育改善専門部会を設置し、点検を行っている。	
	ウ 教育点検システムに関する活動の実施		【教務委員会】 教員会議で点検内容等を報告している。		○	【教務委員会】 教員会議や学科会議等で点検内容等を報告・開示している。	
			【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。		○	【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。	
			【教務委員会】 学生授業評価アンケート・教員相互によるピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。 また、学生・教務上の制度の整備・検討を実施している。		○	【教務委員会】 学生授業評価アンケート・教員相互によるピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。 また、学生・教務上の制度の整備・検討を実施している。	
			【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。		○	【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。	
(2) カリキュラムの教育活動を点検する仕組みにおける社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みの存在と、カリキュラムの教育活動を点検する仕組み自体の機能も点検できる構成	教務委員会 (専攻科委員会)						
ア 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在		【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施している。		○	【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施している。また、本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的 に実施している。この他、運営諮問会議において、外部の意見を聞いている。また、卒業生が就職している 企業へのアンケートを実施し、本校卒業生がどのような能力に優れ、何が足りないのかを聞いている。以上の意見を参考に、カリキュラムの改善を実施している。		
		【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的 に実施している。		○	【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的 に実施している。以上の意見を参考に、カリキュラムの改善を実施している。		
イ 点検システム自体を点検できる構成		【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会、同WG等が存在し点検を実施している。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)		○	【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会および同WGは、教育活動を点検する仕組みが機能しているかどうかをチェックし、必要に応じて改善している。		
(3) カリキュラムの教育活動を点検する仕組みを構成する会議や委員会等の記録の当該カリキュラム関係教員に対する閲覧手段の提供	教務委員会 (専攻科委員会)						

	ア 関係教員が記録を閲覧する方法		<p>【教務委員会】 学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。</p> <p>【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている。</p>		○	<p>【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している</p> <p>【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている。</p>	
4-2 継続的改善	(1) 教育点検の結果に基づいて、基準の内容(分野別要件を含む)に則してカリキュラムを継続的に改善する仕組みの存在と、改善活動の実施 ア 改善システムの存在	教務委員会(専攻科委員会) 自己点検評価委員会 FD委員会	<p>【電子情報工学科・制御】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)</p> <p>運営諮問会議、教務委員会・FD委員会・自己点検評価委員会等。</p>	PDCAサイクルについて早急に改善する必要がある。(再掲) 自己点検評価項目の見直しを検討する。	○	<p>【自己点検評価委員会】 ・自己点検評価委員会において、PDCAサイクルの仕組みを明らかにし、サイクルにおける役割・分担を明確にした。</p>	
	イ 改善活動の実施状況		<p>【教務委員会】 新教育課程の完成年度にとまない、カリキュラムの改定等を行う。</p> <p>【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。</p>		○	<p>【教務委員会】 教務委員会において、新教育課程を点検し、また学生からの要望を参考にして、カリキュラムの改定等を継続して実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。</p>	
5 国際交流	(1) 国際的な学術交流活動の推進 ア 学生の交流活動状況及び指導体制	製品開発・社会貢献本部(ソリューションセンター、イノベーションセンター、国際交流センター) 教務委員会 各学科・専攻科	<p>【地域人材開発本部】 ブダペスト工科大学(ハンガリー)から1名の短期留学生を受け入れた。(地域イノベーションセンター) 1名の専攻科生がISTTSで研究発表を行った。 20名の学生がシンガポールの2つのポリテクニクで研修を受けた。</p> <p>シンガポール・テマセクポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 シンガポール・ナンヤンポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 タイ・キングモンクット工科大学ラカバンから4名の短期留学生を受け入れた。 英国北アイルランドSERCから2名の短期留学生を受け入れた。 米国ハワイKCCから1名の短期留学生を受け入れた。(国際教育センター)</p> <p>【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき、交流を行う計画を進めている。</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】 海外インターンシップへの参加や海外からの来訪者との交流を実施した。</p> <p>【電気制御システム工学科】【電気工学科】 ・モンゴルからの3年時編入留学生を受け入れ、学生交流および教育指導を行った。 ・5年生のラオスからの国費留学生の学生交流、教育指導および進路指導を行った。 ・タイからの短期留学生2名を受け入れ、研究指導を行った。 ・異文化実習プログラムに3年生が参加した。</p>		○	<p>【製品開発・社会貢献本部】(国際交流センター) 学生の相互国際交流を積極的に推進している。本年度の実績は下記の通りである。 2名の専攻科生がISTTSに参加した。 シンガポール・テマセクポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 シンガポール・ナンヤンポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 タイ・キングモンクット工科大学ラカバンから12名の短期留学生を受け入れた。</p> <p>【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき、交流を行う計画を進めている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 ・4年生のモンゴルからの国費留学生の学生交流、教育指導および進路指導を行った。 ・タイからの短期留学生4名を受け入れ、研究指導を行った。</p>	短期留学生受け入れについては、要望がある教育機関を中心に受け入れを進めることが必要である。

【物質化学工学科】
 ・3年生3名がKCCにおける英語圏異文化実習に参加した。
 3年生2名がシンガポールでの研修に参加した。

【電子情報工学科】
 ・3年次編入生を2名受け入れ、教育指導を行った。
 ・ナンヤンポリテクからの短期留学生(3ヶ月)6名を受け入れ、研究指導を行った。
 ・専攻科と連携し、北アイルランド SERC の学生と協働でのづくりを行う PBL 実習を行った。

【国際ビジネス学科】・今年度も異文化実習プログラム、長期留学プログラムを継続的に実施した。(異文化実習プログラム：中国9名、韓国7名、ロシア8名、カナダ15名、提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学2名、カナダ半年留学10名)・上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、引き続き数回に亘るガイダンスに加え、3月および7月に事前セミナーを実施し、長期留学後には、ライティングの指導を中心に9月および2月に実施した。・以上は学科を中心とする校内運営のプログラムであるが、これ以外にも高専機構主導のシンガポールへの短期留学プログラムへ1年生が10名以上参加。また、富山県が主催するタイへのインターンシップへ4年生1名が参加した。・さらに、タイから4名、北アイルランドから1名、シンガポールから2名の留学生を学科として受け入れ、学科教員が一人1名をメドに留学生を研究指導した。

【商船学科】
 商船学科では今年度も昨年度に引き続きハワイ大学カウアイコミュニティカレッジへ国際インターンシップで学生(希望者)を派遣した。学生は語学のみならず、相手国の文化に直に触れるユニークなシステムにより国際人としてのセンスを身に付けて来た。カウアイカレッジの学生1名を商船学科に短期留学生として3週間受け入れを行った。

【一般教養科】
 学科とも協力し、英語や情報などのボランティアを行っている。また、今年度からは、提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習に工学系の学生6名が参加した。

【専攻科】
 国際インターンシップ参加を推奨し、英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに8名が参加した。

○ **【物質化学工学科】**
 3年生1名がKCCにおける英語圏異文化実習に参加した。5年生による国際学会での研究発表が7件あり、海外研究者との研究を通じた交流があった。

○ **【電子情報工学科】**
 3年時編入学生1名を受け入れた。
 ナンヤンポリテクノカレッジから、4名の留学生を受け入れ指導を行った。

○ **【国際ビジネス学科】**今年度も多くの留学生を送り出し、またアジアからの短期留学生を受け入れた：・異文化実習プログラム(4週間)、長期留学プログラム(半年及び1年)を実施した。(異文化実習プログラム：中国4名、韓国はウイルス蔓延のため中止、ロシア3名、カナダ13名、提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学4名、カナダ半年留学4名)・上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、引き続き数回に亘るガイダンスに加え、2月および7月に事前セミナーを実施し、長期留学後には、ライティングの指導を中心に9月および2月に実施した。・タイから4名、シンガポールから2名の留学生を学科として受け入れ、学科教員が研究指導した。

○ **【商船学科】**
 商船学科では今年度も昨年度に引き続きハワイ大学カウアイコミュニティカレッジへ国際インターンシップで学生(希望者)を派遣した。学生は語学のみならず、相手国の文化に直に触れるユニークなシステムにより国際人としてのセンスを身に付けて来た。

○ **【一般教養科】**
 昨年度から引き続き、提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習を2月～3月にかけて行い、工学系の3年生、8名が参加した。学生は3回の事前研修をして準備をした。また、現地の学生とともに授業を受け、ホームステイやボランティアなどを通して、国際的なセンスを磨いてきた。

○ **【専攻科】**
 海外インターンシップ参加を推奨し、マレーシアやタイの事業所での2週間のインターンシップに7名の学生を派遣した。また、英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに2名が参加した。
 創立50周年記念の国際セミナーや、高専連携セミナー(CAST)を開催し、専攻科生が発表と司会を行った。

イ 交流協定の締結状況と活用状況

【地域人材開発本部】
中国東北大学と平成 26 年 9 月にセミナーを開催した。
ハンガリーMFA およびパーズマニーペーテルカトリック大学と学術協定を締結した。

中部科学技術センターの海外研究者招へい事業を活用することで、キョンヒ大学(韓国)から Jo 教授を招へいし、学生教育や教員との共同研究において連携した。(地域イノベーションセンター)

【機械システム工学科】 【機械工学科】
特記事項なし。

【電気制御システム工学科】 【電気工学科】
・タイからの短期留学生 2 名を受け入れ、研究指導を行った。
・異文化実習プログラムに 3 年生が参加した。

【物質化学工学科】
タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から 2 名の短期留学の学生を受け入れた。

【国際ビジネス学科】
・平成 18 年度から本校とカナダのビクトリア大学(Uvic)と長期留学プログラムの提携を結び、4 年次前期の半年留学を、平成 20 年度からは、バンクーバー・アイランド大学附属高校(VIH)と提携し 3 年次の 1 年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成 26 年度までの累積でそれぞれ、45 名、17 名が参加している。
・タイから 4 名、北アイルランドから 1 名、シンガポールから 2 名の留学生を学科として受入れ、学科教員が一人 1 名の留学生を研究指導した。(再掲)

【商船学科】
昨年同様ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定の状況が良好に維持され順調に運用されている。カウアイカレッジの学生 1 名を商船学科に短期留学生として 3 週間受け入れを行った。カウアイコミュニティカレッジに、英語外地研修として、商船学科の教員を派遣している。

【一般教養科】
ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」に 3 年工学系学生 6 名が参加し、引率指導に教員を派遣した。

【製品開発・社会貢献本部】
平成 27 年 10 月に、本校創立 50 周年・創基 110 周年にあたり、海外協定校 7 機関【東北大学(中国)、サウス・イースタン地区連合カレッジ [SERC] (英国・北アイルランド)、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ [KCC] (米国)、キングモンクット工科大学 [KMITL] (タイ)、ハンガリー科学アカデミー応用物理・材料科学研究所 [MFA]、パズマニ大学(ハンガリー)、ブダペスト工科大学(ハンガリー)】から学長等を招聘し、学生向け国際セミナー、産学連携に関する企業向け国際セミナーを開催した。
平成 27 年 12 月に、タイにおいて、キングモンクット工科大学 [KMITL] と共同で、工学と技術に関する国際会議(ICET2015)を開催した。
平成 28 年 3 月に、中国東北大学から教員を招聘して国際セミナーを開催した。
また、ハンガリーブダペスト工科大学自動制御応用情報学科と学術協定を締結した。

【機械システム工学科】
特記事項なし

【電気制御システム工学科】
・タイからの短期留学生 4 名を受け入れ、研究指導を行った。

【電子情報工学科】
・マレーシアからの短期留学生 4 名を受け入れ、研究指導を行った。

【物質化学工学科】
タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から 1 名の短期留学の学生を受け入れた。外国人研究者(韓国)を半年間受け入れた。

【国際ビジネス学科】
・平成 18 年度から本校とカナダのビクトリア大学(The University of Victoria)と長期留学プログラムの提携を結び、4 年次前期の半年留学を、平成 20 年度からは、バンクーバー・アイランド大学附属高校(The High School at Vancouver Island University)と提携し 3 年次の 1 年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成 27 年度までの累積でそれぞれ、49 名、21 名が参加している。
・タイから 4 名、シンガポールから 2 名の留学生を学科として受入れ、学科教員が研究指導した。(再掲)

【商船学科】
商船学科教員は上記ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定における学生インターンシップの引率指導に教員を次々に派遣し、できるだけ多くの教員にこのプログラムの理解と経験をしてもらい全体力を傾注できるように努力している。学科教員をKCCに外地英語研修として派遣している。

【一般教養科】
ハワイのカウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」に 3 年工学系学生 8 名が参加し、引率指導に教員を派遣した。

	<p>ア 地域社会との共同研究・共同開発事業の企画・実施</p>		<p>射水市の5つの小学校において、留学経験のある学生と留学生が、小学校の英語活動に参加し、学生の留学経験や留学生の母国紹介のプレゼンテーションを行った。(国際教育センター)</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>射水市の4つの小学校において、留学経験のある学生と留学生が、小学校の英語活動に参加し、学生の留学経験や留学生の母国紹介のプレゼンテーションを行った。(国際交流センター)</p> <p>射水教育委員会が主催する市内中学生のための土曜塾、夏休み補講の講師として学生の派遣に協力した。(学生主事室)</p> <p>企業等との共同研究、受託研究を推進し、特に技術振興会会員企業との共同研究には技術振興会予算に基づく助成を行った。件数は共同研究42件(うち技術振興会企業18件)、受託研究9件(うち技術振興会会員企業1件)であった。(イノベーションセンター)</p>	
	<p>イ 地域社会との連携による本校教育の高度化のための企画・実施</p>				<p>○</p>	<p>主に地域の技術者をシニアフェローとして任命し、講義・実習等に活用した。本年度のシニアフェローは31名であった。(イノベーションセンター)</p>	
	<p>エ 地域社会との連携事業に関する広報</p>				<p>○</p> <p>○</p>	<p>本校での取り組みについて、HPを活用して積極的にPRした。また、技術振興会会員企業やシニアフェローを対象に、メーリングリストによる情報提供を継続して実施した。(イノベーションセンター)</p> <p>【志願者対策室】 本校近隣の小中学校等を対象に、他の教育機関との連携組織基盤づくりの一環として、年間を通して出前授業を、夏休み期間には中学生を対象とした公開講座を、それぞれ対象者のニーズを捉えた29講座を開講し、1,473名の参加があった。多くの講座で募集定員を上回る申込みがあり、全体として定員を10%以上上回る受講者を受け入れて実施した。受講後の参加者アンケートでも内容について高い満足度となった。</p>	